

2014 年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2014 年度新たに開講した科目を中心に述べる。

①必修科目（演習系）：2 年次対象のグローバル地域文化入門セミナーを開講した。コースごとの少人数クラス編成で、専門研究を始めるにあたり必要な当該地域の基本的知識と技能について、きめ細かい指導を行った。

②必修科目（講義系）：グローバル地域文化入門（2 年次春学期）を開講した。3 コースそれぞれにクラスを設け、グローバリゼーションのただ中にある諸地域の現代事情を理解する上で、欠くことのできない様々なトピックを扱い、学生がそれぞれの地域文化への理解を深められるよう努めた。同じくグローバル地域文化の基礎（2 年次秋学期）を開講、3 コースそれぞれにクラスを設けた。学生による発表を取り入れ、学生が主体的に授業に取り組めるよう促し、新聞記事や映像資料の紹介、参考文献リストの配布などを通じて、学生の理解と関心を深めた。

③選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として海外インターンシップを開講し、夏にアメリカ、カナダ（英語圏）、中国の 3 つのプログラムを実施した。また、学部独自科目としてロシア、香港、アメリカの 3 つのスタディ・ツアー科目を準備し、募集説明会と応募・選考試験を行った。

④選択科目：コースごとに、当該地域に対する幅広い視点に基づく授業を展開し、地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題に関する多彩な講義科目を開講した。

II. FD 活動

1 年次生対象のグローバル地域文化導入セミナーおよび 2014 年度から始まった 2 年次生対象のグローバル地域文化入門セミナーそれぞれの担当者会議が開催された。両者の情報共有を目的に、両セミナーの担当者が互いの担当者会議に出席するなどして、異なる学年対象の必修科目（演習系）間の連携づくりに努めた。

同じく 2014 年度からのグローバル地域文化入門（2 年次春学期）とグローバル地域文化の基礎（2 年次秋学期）は、いずれも 3 コースそれぞれにクラスを設けているが、春・秋学期科目との差異化と連携が図れるよう、後者の担当者間で連絡を取り合い、学生に授業に対するコメントを書かせて次回の授業に生かし、授業ごとの連続性や学生との相互的なやりとりを確保できるよう努めた。

以下、関連する活動を時系列順に述べる。11 月 12 日 FD 講演会「FD の現在」（講師：田中每実・武庫川女子大学教授／京都大学名誉教授）を開催。約 20 名が参加した。11 月 8 日、父母懇談会を開催し、104 組 178 名の父母の参加があった。学部カリキュラムや学生生活などについて説明し、個別相談の場も設けた。学生によるスプリングプログラム（中

国)と海外インターンシップ(アメリカ)の学生体験報告も行き、本学部教育の取り組みについて父母と認識の共有をはかった。12月に本学部新入生へのアンケートを実施した。回答率は52%であり、本学部の志望動機、授業評価、学部カリキュラムへの要望といった項目につきFD委員会で内容の分析を行った。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年2回、研究機関誌(論文、翻訳、書評、書誌、各種の批評と紹介、会員の活動報告など)を発行した。また12月には学術講演会「グローバリゼーションを再考する」(講師:伊豫谷登士翁・一橋大学名誉教授)を主催した。

学部専任教員の研究グループを対象に、図書およびその他の資料購入、複写利用、資料作成費などに充てるべく、「研究会補助」の制度を設けて、研究会活動をサポートした。この制度を活用して2014年度も各種研究会活動が活発に行われた。これらの研究会活動補助を得た研究会は「活動成果報告・経過報告」を年度末に提出した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。(URL: <https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/>)

IV. 国際交流活動

留学関連イベント:2014年4月24日にCampus France—フランス政府留学局・日本支局関西オフィスの大八木美穂氏を招いて「フランス留学セミナー」を開催した。フランス留学の様々な可能性とその魅力についてパワーポイントを用いて紹介してもらい、さらに学生たちからの個別相談にも対応してもらった。

教員交換・海外研究者受け入れ:2014年度はアーモスト・同志社大学短期交換教員としてJavier Corrales氏(5月28日~6月19日)、アーモスト大学より客員研究員Catherine Morse氏(9月1日~8月31日)、ハワイ大学マノア校より客員研究員木村あや氏(8月1日~7月31日)、バル=イラン大学(イスラエル)より客員研究員Avidov LIPSKER氏(2015年2月1日~7月31日)を受け入れた。

V. 社会貢献活動

2014年11月24日に開催された日本・トルコ国交樹立90周年記念シンポジウム「新興国トルコと成熟国日本の交流を深化させるために」にて本学部よりアイスン・ウヤル助教が司会を務めるなど、協力した。本シンポジウムの共催は、本学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」、本学大学院ビジネス研究科、本学大学院グローバル・スタディーズ研究科と、日本・トルコ協会である。

大衆音楽研究会の主催で10月15日、クラウス・パイヤー&アーシャ・ヴァルチッチ、DUOプロジェクト(“Silk Road Japan Tour 2014”)を開催した。同じく11月19日、日

系三世アメリカ人のパフォーマンス・アーティストとして国際的に活躍するノブコ・ミヤモト女史による講演・演奏会「The Journey of the Dandelion（たんぼぼの旅）」を開催した。

VI. 学生支援活動

①学習支援：外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験受験に対し、補助金を準備し支援している。また学部主催の TOEFL-ITP 対策講座を開催し、学生のより積極的な検定試験受験を促した。

②キャリア形成支援：「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けの就職説明会を3度開催した。

第1回「グローバルに学び、世界を見据えて働くということ」（6月16日）

本学の卒業生で、学部・大学院を通じてアフリカ地域について学び、現在は国内大手のコンサルティング会社に勤務する今井絢氏（2010年度本学法学部卒）が、大学での学びと卒業後のキャリアについて講演した。

第2回「人事部からみた「グローバル人材」とは」（11月21日）

株式会社神戸製鋼所・人事労政部・人事グループの若山祐二氏が、企業からみた「グローバル人材」、「欲しい学生像」、将来に向けて「今取り組んでおくべきこと」、等について採用担当者の視点から説明した。

第3回「グローバルに学び、世界を見据えて働くということ」（1月16日）

第1回の講演会が好評だったことをうけて今井絢氏を再度招聘し、大学や留学先で「グローバル研究」や「地域研究」を学ぶことと卒業後のキャリア形成の関係について、コンサルティング業界の事例と関連づけた講演を聞いた。

以上